

1. 福岡城の構え

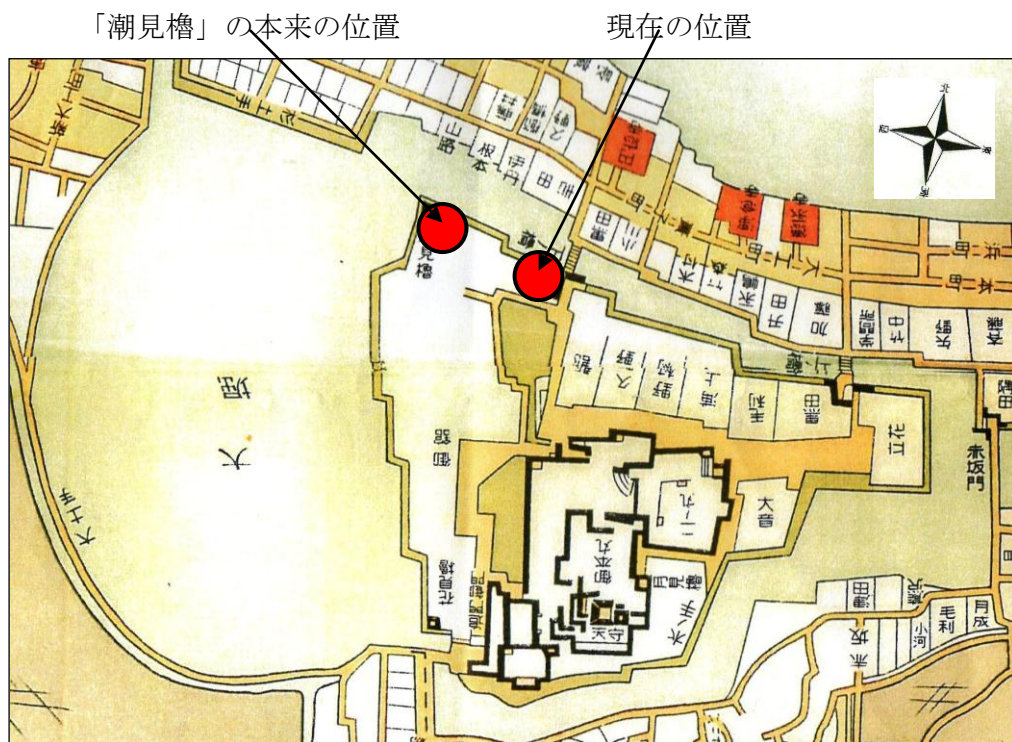
櫓の巻2 (伝) 潮見櫓

終戦後、私達に、福岡城らしさを見せてくれたのが、下の橋大手御門横に移築された、通称「潮見櫓」である。明治通りに沿った福岡城の内堀に映る二層の櫓のことで、県の文化財に指定されている。入母屋造りの本瓦葺きで、1・2階とも、漆喰壁に腰下見板張りである。

潮見櫓は、博多湾の潮の干潮を監視して、数馬門と黒門の開閉時を知らせる役割を担い、城の北西角（現 簡易保険事務センター地点）に建てられていた。

大正初期に、旧黒田家別邸の浜御殿（現 浜の町）に移築されていたが、幸い戦火による焼失を免れ、昭和31年に現在の場所に再移築された。

しかし、調査の結果、この櫓は「潮見櫓」ではなく、本丸北一画にあった「太鼓櫓」ではないかと言われている。もともと、下の橋大手御門横に櫓があったとは、古絵図にも載っていない。「市教育委員会」も再調査の要ありと言っている。



文化年間（江戸）之図

